

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年5月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870600384		
法人名	株式会社コモドヴィータ		
事業所名	コモドヴィータ下館	ユニット名	すずらん
所在地	〒308-0841 茨城県筑西市二木成1530		
自己評価作成日	平成26年10月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年 3月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_023_kihon=true&JigyosyoCd=0870600384-00&PrefCd=08&VersionCd=023
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年12月17日	評価機関 決 済 日	平成27年 5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活をおくることができるよう、利用者の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行います。また、利用者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して行います。
なお、介護従業者は、サービスの提供に当たっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行います。
サービスの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行わないようにしています。事業者自らその提供するサービスの質の評価を行い、常にその改善を図るものとしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から5分程脇に入った場所に立地しており、周りは商業施設が多い住宅街の一角にある。
同じ建物内には法人が運営する有料老人ホームや短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所があり、合同で行事を行うなど、活気ある環境となっている。
管理者は利用者が四季の移り変わりを感じながら気分転換ができるよう、外出支援の計画を毎月行うとともに、毎日楽しく生活ができるようボランティアによるギター演奏や習字、カラオケ、読み聞かせ、俳句、民謡などのレクリエーションを取り入れ、地域住民と交流を図りながら利用者の支援に取り組んでいる。
利用者の思いを把握するため、毎年1回居室担当職員が、利用者との日々の関わりの中で把握した思いを「ニーズシート」に記載し、それを基に全職員で話し合っている。
おむつを使用していた利用者が、排泄の自立ができるようこまめに声をかけをしたり、トイレ誘導をしたことで、パッドとリハビリパンツに改善したなど、排泄の自立に力を注いでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本マニュアルに添って職員全員が勉強している。毎日、出勤時には理念を全員で唱和している。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、職員が出勤時に理念を確認できるよう、各ユニットの入口ドアの脇に掲示している。 職員は出勤時に理念を音読しながら、職員一人ひとりが再確認し、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の床屋さんのボランティアにより男性の利用者様が散髪していただいている。デイサービスを併設しているため毎日いろいろなボランティアの方々が来て下さっており参加できる時は参加をしている。また、地域の運動会見学や文化祭作品展示など行っている。	最近自治会に加入し、利用者と一緒に回覧板を回したり、缶拾いの清掃活動に参加するなど、地域の一員となるよう努めている。 年2回運営母体の法人主催の「納涼祭」と「コモド祭」を利用者や家族等、地域住民の参加を得て開催し、地域住民と交流ができるように支援をしている。 「納涼祭」や「コモド祭」では、ボランティアによる演奏や踊りのほか、地域住民による焼きそばやかき氷、ゲーム、家族等や近隣住民の協力によるバザーを開催し、収益の一部を市に寄付している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の商店へ買い物に出かけたり、公園へ散歩に出かけた時に近所の方に挨拶して、交流のきっかけ作りに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、入居者様やご家族様、地域の方々に参加して頂き、日々の活動内容を紹介したり、レクリエーションにも参加して頂き、意見交換や交流の向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市担当者、社会福祉協議会職員、民生委員、代表者、施設長、事務局長、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議に家族等の参加が得やすくなるよう、行事時に合わせた日曜日の開催では、市担当者の参加が得られず、平日のみでは家族等の毎回の参加を得るまでには至っていない。 会議では利用者の生活の様子や運営状況を報告するとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 家族等から「日常的に日光浴や外気浴を多く取り入れた支援をした方が良いのでは」との意見を受け、天気の良い日には、近隣の公園まで散歩をする支援を取り入れている。	運営推進会議は必ず市担当者、もしくは地域包括支援センター職員が同席しなくてはならないことから、再度運営推進会議の委員と出席に向けた話し合いをし、毎回の会議出席が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所の担当者参加して頂いて、市の情報などの提供を受けている。	管理者は要介護更新認定申請などで、定期的に市担当者を訪問し、運営状況や空き情報を報告して協力関係を築くよう取り組んでいる。 管理者は利用者の支援時に起きた事故について市担当者を訪問して事故報告を行い、対応を相談するとともに、再発防止に向けて指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていません。しかし、危険防止のためにやむを得ない場合は家族と相談し、その弊害を説明して納得の上支援している。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書や重要事項説明書に明記するとともに、月1回ユニット会議時に身体拘束の内容とその弊害を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。 現在家族等から書面で同意を得て、転倒防止のためにやむを得ずベッド柵や車椅子にY字ベルトを着用している利用者があるが、経過観察記録を基に月1回身体拘束抑制廃止委員会で、身体拘束排除に向けて話し合っている。 今まで玄関は自動ドアを自由に出入りできるよう手動で開閉していたが、頻繁にドアの故障があるため、業者に問い合わせたところ、自動ドアは手動にするので、自動で開閉するよう指示があり、常時施錠している状態だが、利用者が外に出たいと感じた時には職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会で、入居者様への対応などを良く話し合っており、虐待防止に努めている。職員の言葉使いなど、日常生活の中で細心の注意を払い、虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が認知症介護実践者研修に参加しフロア会議の勉強会で制度の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する書類を提示し説明をしている。ご家族様の不安や疑問点をお聞きし、十分な説明を行い、理解納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が、ご意見や不満等を言える環境づくりに努め、苦情があった場合は、速やかに管理者へ報告している。また家族面会時に要望や苦情などを聞くようにしている。	管理者や職員は、利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話などで、意見や要望を聴くように努めている。 年1回利用者と家族等にそれぞれ無記名のアンケートを実施し、アンケート結果を各ユニットの入口に掲示し、自由に閲覧することができる。 利用者から「外食がしたい」との要望を受け、外出支援時には外食を取り入れるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議を月一回開催し意見や提案を出し合い、話し合っている。職員の意見を吸い上げて、毎月の運営会議に意見を述べるようにしている。	管理者は月1回のユニット会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図るなど、日頃から何でも言い合える環境づくりに努めている。 年2回施設長が個人面談を行っているほか、随時相談を受け入れている。 職員から「体力維持のために、運動クラブを開設して欲しい」との要望を受けてバトミントン部を設け、勤務中に近隣の体育館に予約に行けるなど、職員の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者が馴染みの管理者や職員による支援が受けられることを重視している。年一回の職場異動があり、異動になった職員は職場環境の変化に対応する努力をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は新たにトレーナーとOJTを育成し職員を育てる取組みを行っている。法人外の研修に積極的に参加するなど、法人内の勉強会、フロア内の勉強会も月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は行われていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調に関しては看護部長、介護部長、管理者又は介護員が行い、見学については事務局長が行っている。入居後、本人の不安や要望は、コミュニケーションを図り、良く聞く機会を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと等、要望に耳を傾け、入居後もこれらのことがらを良く聞く機会を作り、相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を良く聞き、要望をもとに、必要としている支援を見極め、サービス利用の調整を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意な事などをお聞きし、共に楽しく過ごせる環境作りに努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携し協力して頂けることは協力して頂き本人の生活を共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、又、身内だけの方しか解らない利用者様もいるが、馴染みの知人や、友人の方にも気軽に会いに来て頂けるような環境作りをしている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や教え子、親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように配慮し、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。 月1回馴染みの理容師が来訪し、男性の髪を無償で散髪している。 利用者が墓参りや馴染みの店での買い物を希望する場合は、家族等の協力を得て、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立せずに支え合って共同生活ができるように支援して行きたい。フロアに置いてあるソファなども憩いの場となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに継続的な関わりを必要とした利用者や家族がいない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人のその時その時の希望に添えるよう心がけ、出来るだけ本人が満足できるよう支援をしている。	管理者や職員は利用者との日々の関わりの中で、会話や行動を観察しながら思いや意向を把握しているほか、年1回居室担当職員が「ニーズシート」に利用者の思いや意向を記載し、全職員で話し合い希望にそえるように支援をしている。 意思疎通が困難な利用者の中には、表情や仕草から判断したり、家族等の意見を聴きながら「ニーズシート」をもとに検討し、支援をしている。 管理者は利用者の思いに変化があった場合は口頭で職員に伝え、支援結果のみを「申し送りノート」に記載し、全職員で共有しているが、思いの変化などを詳細に記載するまでには至っていない。	利用者の思いの変化を全職員で共有するためにも、利用者一人ひとりの詳細な記録を残すことを期待する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様より生活歴等を伺い、本人の希望に近づけるように心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方をよく観察して、職員全員が現状を良く理解し、本人の出来ることを発見し支援して行く。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的、又は、必要に応じて開き、本人、家族、チームのメンバーでよく話し合い介護計画を作っている。又、モニタリングは二ヶ月に一回実行している。	介護計画は利用者や家族等、主治医、管理者、職員などで6ヶ月に1回カンファレンスを実施し、利用者や家族等の意見や要望、医師や職員の意見等を取り入れて作成するとともに、2ヶ月に1回モニタリングを行って6ヶ月から1年毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じたり、ニーズシートを活用し出来る限り柔軟な支援やサービスが提供できるよう心がけている。足のむくみが気になる時はリンパマッサージの”癒しの手”を利用したり、機能訓練士による下肢筋力のリハビリを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に来て頂いたり、コモド祭りに地域の方々にも参加して頂いている。また、消防訓練時に消防署の協力を得ている。ボランティア（傾聴、ハーモニカ、歌、俳句、オカリナなど）月1～2回程度きて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談し、希望を大切に、本人の安心できる医者をおかかりつけ医としている。適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医の受診が可能ことや、協力医療機関の医師をおかかりつけ医にできることを説明している。かかりつけ医に受診する場合は、家族等の付き添いを基本とし、受診時には利用者の状態などを家族等に伝えているほか、家族等から依頼があれば職員が同行している。月2回協力医療機関の医師による訪問診療や、必要に応じて随時往診が受けられるように支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に報告・連絡・相談等を申し送る。NSノートを活用している。看護職員へは気になる症状や発熱時すぐに報告し指示をもらい対応している。毎朝、利用者様のバイタルを確認してもらい日常の健康管理等の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出しており、面会時には家族や病院関係者と情報交換をしている。また、退院後の指導も病院から受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護に関しては家族やかかりつけ医、看護職員と話し合いながら支援している。	契約時に利用者や家族等に「重度化した場合における（看取り）指針」で事業所の方針を説明するとともに、利用者の急変時に備えて「容態急変時の覚書」で同意を得ている。 看取りの段階に入った時に、家族等に事業所の体制を説明するとともに、「看取り介護についての同意書」で同意を得ている。 看取りの段階に入った時点で、協力医療機関の医師による話し合いや、事業所内の看護師による看取り介護の具体的な支援内容などの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応の勉強会を常日頃から開いており、外部の研修会（消防署でのAED講習会）にも参加している。看護師からは吸引ノズルの使い方を教えてもらい、応急手当や急変時の対応の勉強会にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は現状では十分とは言えないが、尚一層これを徹底していく必要がある。	避難訓練は年2回消防署立ち会いのもと、通報や避難、集合、水消火器による消火訓練を行っているが、夜間想定や近隣住民の参加を得た避難訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練後に反省点や課題などを話し合っているが、実施記録のみで、話し合った内容などを記録に残すまでには至っていない。 災害に備えて水や非常食用のアルファ化米、味噌汁のリストを作成して備蓄している。	前回の課題でもあった夜間想定や近隣住民の参加を得た避難訓練が達成できるよう、運営推進会議の委員やボランティアなどの協力を得て、再度検討することを期待する。 全職員が災害対策の共有認識を持つためにも、避難訓練後の反省点や今後の課題を記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の調子、態度についての注意を怠らないようスタッフ会議で注意しあっている。	管理者と職員は、利用者への言葉遣いに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識をするなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援をしている。 職員の接遇や支援内容などをチェックしていた接遇委員会が、サービス品質委員会に変更となり、月1回利用者の人格を尊重した支援ができるよう話し合っている。 個人情報に関する書類は、職員室にある施錠ができるロッカーに保管し、情報漏洩に留意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見をはっきり言える方が増え、必ず本人の思いや希望を聞いて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、一人一人の希望に添えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人と相談し決めている。理美容は、本人と家族にお聞きし利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日三食のメニューを掲示しその都度食事内容を説明している。その人に合わせて美味しく食事が摂れるような声掛け支援をしている。また、利用者様の声を聞き給食委員会に報告しサービスの向上に生かしている。	献立や食事は、同一法人の併設する有料老人ホームの委託業者が作っている。月1回給食委員会の委員が、利用者の体調や咀嚼能力に合わせた食事を業者に伝えているほか、利用者の苦手な献立の場合は代替食を用意するなど、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。利用者はできる範囲でテーブル拭きや下膳などを行っている。毎月行事食や選択メニューを実施しているほか、誕生会には手作りケーキで祝うなど、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、一日量をチェックし、栄養摂取については厨房の栄養士が管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人を洗面台に誘導し、うがい、歯磨きの口腔ケアを実行し、義歯は、毎晩、洗浄剤を使用している。職員による仕上げ磨きを心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	意思表示が難しい人には定期的な声掛けを行ったり、できる人には可能な限りトイレへ誘導し排泄介助を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らってトイレへ誘導しているほか、パッドやリハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。おむつを使用している利用者を昼間はパッドとリハビリパンツを使用しながら、職員のコマめな声かけ誘導でトイレで排泄するなど、おむつからパッドとリハビリパンツに改善し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、リハビリ体操・タオル体操を行い、10時と15時はお茶の時間に食事も水分を多く摂れるようにしている。便秘3日目には看護師に報告をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	少人数のためゆっくりと入浴して頂くようにしており、少なくとも週2回は湯船に入れるように支援している。また、入浴のない日には足浴を行っている。	風呂は毎日沸かし、週2回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「お風呂に入って温まりましょう」や「お風呂に入ってから美味しいお菓子食べましょう」と、利用者の興味のある話しをしながらさりげなく風呂場へ誘導するなど、工夫をして入浴ができるように支援をしている。 入浴剤を使用したり、併設している通所介護事業所の炭酸泉の大浴場で温泉気分を味わえるようにしているほか、冬至には柚子湯にして季節感を取り入れ、入浴が楽しみとなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員との会話を楽しんで頂いたり、気ままにテレビを見たり、横になって寛いでいただけるよう支援している。又、夜休めない方には、お話をお聞きしたり、暖かいお茶を飲んで頂き、安眠へとお誘いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行い、看護師の指示のもと飲み忘れや誤薬がないよう二重チェックし職員同士で日付、いつ、名前を声に出し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとのできる人にはなるべく本人の希望が実現できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力なども得て、散歩や、買い物、ドライブにも出来るだけ出掛けられるように支援している。また、外出レクリエーションの企画を心がけている。	天気の良い日には利用者の希望を聴きながら、利用者と職員で近隣の公園や事業所周辺を散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わりを肌で感じたりするほか、年間行事に季節の花の見物や果物狩りを組み入れ、利用者が気軽に気分転換ができるように支援をしている。 利用者が買い物や外出を希望した場合は、家族等の協力を得ながら出かけられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できないため、事務所にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたい時は施設内の公衆電話に案内し職員付き添いの元自分でかけて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間をできるだけ居心地良く過ごせるように、室温、雑音、光線などの調整に配慮している。	居間兼食堂は、入口の透明なドアや窓から採光が差し込み、部屋全体が明るく暖かい環境となっている。 居間兼食堂にはテレビやカラオケの機械を配置し、その前にあるにソファで利用者がのんびりと寛げる空間にしているほか、壁には利用者がレクリエーションで制作した書道の作品が飾られている。 脱衣場は浴室との温度差がないようエアコンを設置するとともに、浴室に手摺を付けるなど、利用者が安心して入浴ができる環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同志が楽しくお話できるような居場所作りを工夫している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や、生活用品を持ち込まれている方もいるが、けがをしたり、事故に繋がらないように最大の配慮をしている。 居室にはエアコンやベッド、整理棚、カーテン、足元灯、換気扇、壁にはハンガー掛けが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた布団や整理筆筒、衣装ケース、机、椅子、加湿器、家族の写真、本など思い思いの物品を持ち込み、居心地よく暮らせるように工夫をしている。 ベッドが苦手な利用者は、床に絨毯を敷いて布団を使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、歩行困難な方には歩行介助をしたり、車椅子使用の方にはその方の能力に合わせた対応をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 コモドヴィータ下館

作成日 平成27年5月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に市役所の担当者がさんかしていないことがあった。(家族都合を優先し日曜開催をした為)	委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かす。	市担当者もしくは地域包括支援センター職員が毎回会議出席出来る平日に運営推進会議を行う。(家族会は日曜日に開催する)	平成27年2月に達成。
2	9	年1回のニーズシート作成をしているが、随時変化する利用者のニーズをもっと把握する必要がある	利用者の思いの変動などを全職員で共有できる。	ニーズシート作成後も随時利用者ニーズを書き換えていく。	半年～1年
3	13	夜間を想定した消防訓練を行っていない。また、近隣住民の参加を得た訓練もしていない。	災害時も安心安全に避難ができる。	年2回の消防訓練の1回を夜間を想定した訓練とする。また、自治会に防火訓練のお知らせをして参加協力を得る。なお、訓練終了後の反省・感想を話し合い記録する。	夜間想定については、半年以内、自治会の協力と反省会については、平成27年6月18日の消防訓練当日。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。